

## ▼トーリセル点滴静注液 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 テムシロリムス temsirolimus 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [mTOR 阻害剤]

【単位】 ▼25mg/V

【常用量】 1回 25mg を週 1 回

【用法】 30～60 分かけて div [infusion reaction を回避するため、premedication (抗ヒスタミン薬) が設定されている]

■詳細な調製法は添付文書参照 ■可塑剤 free の輸液セットを用いる

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (1)

【その他の報告】 ソラフェニブにて PD であった腎癌に対して 25mg を適用した 1 例 (永田仁夫, 他: 透析会誌 44: S755, 2011)

HD 患者でも PK は変化しない (Lunardi G, et al: Clin Ther 31: 1812-9, 2009 PMID: 19808140)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (1)

【特徴】 癌細胞の成長・増殖を調節するキナーゼである哺乳類のラパマイシン標的タンパク質 (mammalian target of rapamycin : mTOR) の阻害剤。シロリムスと同等の mTOR 活性阻害作用を示し、根治切除不能又は転移性の腎細胞癌に適用される。他のサイトカイン製剤との併用治療の有用性は未確認である。

【主な副作用・毒性】 間質性肺炎、投与時間関連反応潮紅 (胸痛, 呼吸困難, 低血圧, 無呼吸, 意識消失, アナフィラキシー等), SJS, 横紋筋融解症, 静脈血栓, 腎不全, 消化管穿孔, 口内炎, 感染症, 高血糖, 血球減少, 皮膚障害, 肝障害など多数。

【F】

【tmax】

【代謝】 エステラーゼを介して主代謝物のシロリムスに代謝され、副次的に異性体、水酸化体が生成 (1) シロリムスは CYP3A4 で代謝 (1) シロリムスの代謝は CYP3A5\*3 で低下する (Meur YL, et al: Clin Pharmacol Ther 80: 51-60, 2006)

【排泄】 尿中回収率 4.6% [iv, 336hr まで] (1)

【CL】 16L/hr (1)

【t1/2】 テムシロリムス : 17hr, シロリムス : 55hr (1)

【蛋白結合率】 85% (1)

【Vd】 170L/man (1)

【MW】 1030.29

【透析性】 資料なし (1) 除去率は低いと思われる (5)

【O/W 係数】 水に溶けないので測定できない (1)

【相互作用】 活性代謝物シロリムスは CYP3A4 阻害剤や誘導剤の影響を受ける (1) 生ワクチン接種不可 (1) ACE-I 併用時に血管神経性浮腫反応が発現しやすい可能性 (1)

【更新日】 20170406

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。